



～ 今後日本の犬社会が目指すものは？ ～

ドイツ・犬物語④「自由と規律」

好評連載

第4弾!



「1位 散歩、2位 食べること、3位 寝ること」

もし飼い犬たちに「あなたの好きなものは？」というアンケートを行えば、こんな回答が寄せられるのではないだろうか。私が住むベルリンは、そんな犬たちにとってはまさにパラダイスのような街である。

たとえば、我が家から車で20分のところにあるブルーネヴァルトの森。近くの駐車場に集まるどの車からも勢よく犬が飛び降りてくる。その眼前に広がるのはベルリン最大で70年の歴史を持つドッグランだ。というよりも、自然森の一部をドッグラン地域に指定したというのが正しく想像もしやすいだろう。

柵も入場料もなく、幅2km、長さ8kmの面積に5つの湖が点在し、その一部は犬専用の水泳場になっている。初めてここに足を踏み入れた時、思わずブリューゲルの絵画『子どもの遊戯』が頭に浮かんだ。大小さまざまな犬があちらこちらで、組んず解れつ転がり回っているのだ。

威勢のいいフォックス・テリアがお人好しのラブラドルを追っかけ回しているかと思えば、ウィペットの細い足にちびのミニチュア・シュナウザーが絡み付いている。地べたで身をよじらせて「一緒に遊ぼうよ!」と誘惑するハスキーを無視してボール遊びをしているシェパード系の雑種…犬好きには心とむしめな光景が続く。

町中にある公営ドッグラン(無料)も、犬が十分運動できるように面積は800㎡以上と決まっているが、それだけでは不十分ということで、ベルリンには市内の森にドッグラン指定地区が計12カ所あり、総面積は1250ヘクタールにも及ぶ。日本とは自然環境が違うから無理とはいえ、広大な森を駆け巡る自由を日本の犬たちにも味合わせたいと誰しも思うに違いない。



しかし、一見自由に見えるドイツのドッグランの裏には、厳しい

約束事が沢山あるのだ。

■呼ばば必ず飼い主のところに戻ってくること

■人間や他の犬に不安や危害を与えないこと

■野生動物を威したり危害を与えないこと

(かつて王侯貴族の狩猟場だった森には、今も野生の猪や鹿、キツネやウサギが数多く生息している)

■ジョギングや乗馬中の人を追いかけないことなど。

これらの規則が守れない犬はノーリードで散歩する資格がないとみなされる。

といってもドッグラン入場資格や検定があるわけではない。犬に十分社会性がありほかの犬と上手に付き合えるか、そして他人や動物に危害を与えないかを判断するのは飼い主自身だ。

それを思うと、監視員もいないのにドッグランで傷害事件や裁判沙汰になるようなアクシデントが起きたことがほとんどないのは驚異的なことだ。犬を訓練に出すことが常識になっていることもあるが、飼い主は自分の犬の性格や能力を正しく認識すべきだという自覚がそこにある。

もう一方の当事者の犬たち。六甲山系にも猪がいるので、体験されたことのある方もいるかもしれないが、猪と遭遇しても冷静に無関心でいるなんて、相当厳しく躡けられた犬しかできないことだ。飼い主にも犬にも容易なことではない。ドッグランで遊ぶ自由と遊ばせる自由。それは、規律を守るものだけに与えられた誇るべき自由なのである。

かつて散歩中に猪の気配を感じた途端、母を置いてひとり逃げ出そうとした我が家の駄犬のことを思い出して日本でもこんなパラダイスが実現するには、まだ時間がかかりそうだと感じている。

ベルリン在住 池永 記代美



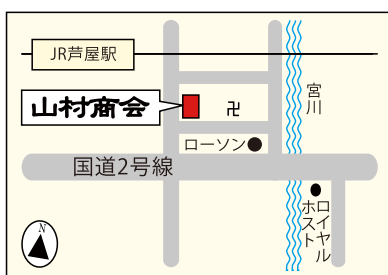
前田町 岸田マリさん

茗荷4才(ビーグル)、七味/2才・生姜/4才(イタリアングレーハウンド)

週末は愛犬と遠出しています。

どちらかというと猫派の私なのですが、仕事で犬用の惣菜やお菓子を作っていることから、縁があってこの三頭を飼うことになりました。散歩となるとけっこう大変ですが、毎日朝夕の散歩は欠かしていません。週末には西は新在家、東は苦楽園あたりまで遠出をして着いた先のドッグカフェでお茶をして楽しんでいます。片道5キロぐらいですがこの三頭とだったら街の風景もやさしく見えてきます。

自転車とモーター 山村自転車商會



芦屋市上宮川町4-12
JR芦屋駅東側
TEL. 0797-22-0417

NOZOMI Dog's Preschool ～犬のようちえん～

ワンコたちはお友達と遊んだり先生とトレーニングをして一日を楽しみますお家に帰る頃にはクタクタに疲れて大満足♪やんちゃ盛りのワンコたち、あつまれ～!



☆しつけに関するご相談にお答え致します

住所: 芦屋市山手町28-6 TEL.0797-57-0636
bogienozomi@docomo.ne.jp ☆詳細はお気軽にお尋ねください。